

## 令和7年度 内子高等学校 シラバス

教科	国語	科目	論理国語	単位数	3単位 2単位	学年	3学年
教科書	新論理国語（三省堂）	副教材等	新国語総合ガイド 五訂版	(京都書房)			

## 1 学習の目標

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
- ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2 学習の内容

学期	単元・項目	学習の内容	備考
第1学期	5 信頼性を吟味するために <根拠や例示の適切さを確かめる> なぜ私たちは労働するのか <論理の構成を理解する> 「すべり台社会」と“溜め” 6 隠れた前提を探すために <様々な視点から評価する> 誰かの靴を履いてみること <論拠を批判的に検討する> スポーツとナショナリズム <学びを深める> 「文化が違う」とは何を意味するのか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者のいう「若者たち」の労働觀と「労働の本質」の差異を読みます。</li> <li>・筆者の主張とそれを支えるデータや図表などの情報の妥当性を検証します。</li> <li>・筆者の主張がどのような根拠に基づくものかを捉え、その主張について、様々な視点から評価します。</li> <li>・文脈に沿って筆者の主張を的確に理解し、筆者の論の進め方や論拠を批判的に検討します。</li> <li>・筆者の主張の根拠と具体例、その間にある推論を捉えます。</li> </ul>	中間考査 期末考査
第2学期	7 具体と抽象の関係を理解するために <多様な論点を結びつける> この十年をどう生きるか 8 批評するために <批評する> 〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀 <書き手の立場や目的を考える> 日本マンガのブルーオーシャン戦略 <論理の明晰さを確かめる> 報告文を書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の構成について、「導入」「情報」「仮説」「提言」の観点から捉え、列挙される具体的な事例の意味や機能を考えながら読みます。</li> <li>・何が書いてあるのか、正確に読み、どのように書いてあるか、批判的に読みます。</li> <li>・筆者の見解とそれを支える根拠の有効性を評価したり、データを可視化した図表の効果について理解したりします。</li> <li>・論理が明晰になるように注意して、報告文を書きます。</li> </ul>	中間考査 期末考査
第3学期	9 情報を関連付け自分の解釈を形成するために <考えを広げたり深めたりする> 「知る」ということ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理の展開に沿って筆者の思考法とその主張を読み取ります。</li> </ul>	

## 3 評価の規準

## 【知識・技能】

実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。

## 【思考・判断・表現】

「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

## 【主体的に学習に取り組む態度】

言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようと/or しているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。

## 4 評価方法

学期ごとに、上記の評価の規準の3つの観点から、学習活動への取組、定期考査、単元テスト、小テスト、ノート、プリント、レポートについて評価します。また、各学期の評価を総括し、学年末の成績をA・B・Cで評価します。

## 5 学習のアドバイス

各教材の冒頭には、各単元のテーマや身に付けたい国語の力が示してあります。例えば、教科書(p. 249～p. 256)「この十年をどう生きるか」の文章については、テーマが「具体と抽象の関係を理解するために」とあり、身に付けたい国語の力が「多様な論点を結びつける力」とあります。これらを意識するだけでも学習の成果は増します。授業はもちろんのこと、予習や復習の前にも必ず読んで確認しましょう。

教科書には、教材ごとに文章の前に「学習活動」が示されているので、具体的な問題に取り組むことができます。また、文章の下段には「発問」も示されているので、読解の手掛かりにできます。これらを丁寧に押さえながら学習に取り組めば、授業の内容もきちんと理解できるようになります。

他にも、教材の中に、書く力を養うための「学習活動」があります。グループ活動はもちろんこと、「どのようにあなたは考えるか」を問う記述の課題など、積極的に取り組みましょう。授業や読書などインプットを通じて知識や技能を身に付けるだけでは不十分です。自分の頭で考えて、まとめて、アウトプットすることで、学習効果はより一層高まります。インプットとアウトプットのバランスをとりながら学習する方法が、最も効果的です。